

## 障害(者)に対する大学生のイメージについて 3

○ 北星学園大学 豊村和真 (会員番号 000049)

キーワード3つ: 障害 共生 イメージ

### 1. 研究目的

障害者に対する態度を改善するためには、まずその正しい現状を知る必要がある。その中でも特に障害あるいは障害者に対するイメージは、実際の交流等にかかなりの影響を与えられると思われる。しかしながら、現状では必ずしもこの領域の研究においては客観性が高い方法で検討がなされていたとは言いがたい。そこで、樋口(2004)のいう新たな計量的分析アプローチに従い、本報告では分析の手法や結果を客観的に示しつつ、障害(者)に対するイメージを明らかにすることを試みる。その際、自己および他人の視点から自由記述させ、自他のイメージの違いについて検討する手法(第一報)の他に、障害(者)から連想される語を直接記述させるという手法を追加した(第二報)。さらに本報告では性別等の属性を考慮し総合的に大学生の障害者に対するイメージを明確化することを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

協力者: 大学生1~2年生75名(男子19名、女子54名記述なし2名)

手続き: 大学の講義の時間を利用し、講義前に質問紙を配布し、回答後回収した。

質問紙: 教示文は「『障害』『障害者』という言葉がもつイメージ(思い)をできるだけたくさん正直に記入してください。多いほど良いです。その際に自分のイメージと、一般の人(他の人)が持つであろうイメージを分けて書いてください。」であり、項目は

- ・自分のイメージ(思い) …結果では self と表記
- ・一般の人(他の人)の持つであろうイメージ(思い) …others と表記

の2項目とし、別々に記述させた。さらに、障害者という言葉から連想される語(assoc と表記)を自由記述させた。

分析方法: 樋口(2004)の提案する KH Coder を使用し、分析語として名詞、形容詞、形容動詞、動詞副詞、助動詞を対象として、それらの語の出現数と語の間の関連性について検討した。

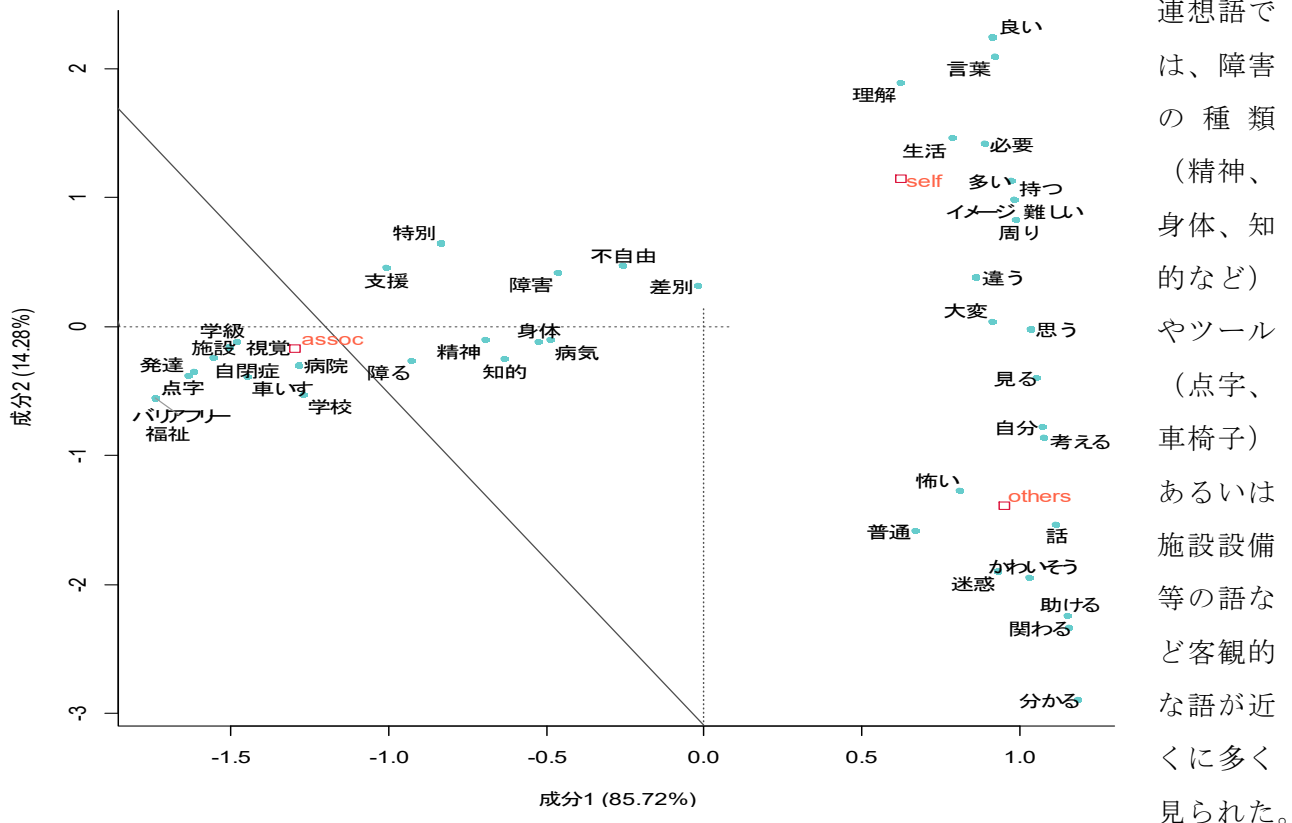
### 3. 倫理的配慮

「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針」を遵守した。一例として質問紙配布の際に回答は任意であること、教育研究目的以外では使用しないこと、個人が特定されない配慮をすること、また途中でも回答を止めることが出来ることを告げ、回答をもって同意したものと見なした。

#### 4. 研究結果

出現語彙については豊村(2017)に従って、自分と他人のイメージにおいて 1017 の文を得た。これらの中から形態素解析後の語のうち分析方法で述べた品詞について、出現頻度が 5 以上の語について検討した。なお当日表示する図では上位 45 語について示した。

これらの語彙の頻度を元に対応分析をした。連想語(assoc)と、自分 (self) および他者 (others) は第 1 成分(左右)で分かれ、自分(self)のイメージと他者(others)のイメージは第 2 成分 (上下) に分かれた (図)。



自分(self)のイメージは好意的な語（良い、頑張る、個性など）が近くに位置し、さらにやや離れて必要、周りなどなどのやや客観的な語が見られた。他者(others)のイメージは否定的な語（迷惑、かわいそうなど）が近くに、やや離れて怖い等が位置していた。

#### 5. 考察

自他のイメージの比較については、豊村(2017)での結果とほぼ等しいが、新たに連想語を入れることにより、自由記述で表示される内容が質的に異なる事が示され、質問の形式の重要性が示された。

##### (文献)

樋口耕一 2004 「テキスト型データの計量的分析 -2つのアプローチの峻別と統合-

『理論と方法』(数理社会学会) 19(1): 101-115

豊村和真 2017 「障害(者)に対する大学生のイメージについて」(第一報) 日本福祉心理学会第15回大会発表論文集